

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツの学際的科学論		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通)	
担当教員名	森 司朗・池田 孝博・小澤 雄二・田巻 弘之・中本 浩揮・高井 洋平・小崎 亮輔				補助担当者名		
単位数	1 単位		履修年次	-		受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	複雑な現代社会において、心身の健康の維持・向上の問題を解決するためには、より学際的かつ複合的な視点から体育学・スポーツ科学をとらえる必要がある。 本講義では、この視点から、複合領域の「体育学」「スポーツ科学」に関して身体教育学系、スポーツ科学系、応用健康科学系の3つの研究分野から各専門分野の教員がオムニバス形式で解説を行う。これにより、複合領域としての体育学・スポーツ科学の学問特性に関する基礎的知識を修得し、高度な専門的指導者としての教養を身につけることを目的とする。						
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（40％） ☒ レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。						
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。						
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	担当教員ごとに要予約（相談）						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	森 司朗	体育学における学際的視点の必要性			体育学の研究領域・身体適応論（1時間）		
2	高井 洋平	トレーニング科学からみた研究アプローチ			トレーニング科学、運動生理学の概要（1時間）		
3	田巻 弘之	神経・筋生理学からみた研究アプローチ			神経と筋生理の概要（1時間）		
4	森 司朗	運動発達からみた研究アプローチ			発育発達論の概要（1時間）		
5	小崎 亮輔	武道学・アダプテッドスポーツ科学からみた研究アプローチ			武道及びアダプテッドスポーツの概要（1時間）		
6	小澤 雄二	運動学・コーチ学からみた研究アプローチ			バイオメカニクスの概要（1時間）		
7	中本 浩揮	スポーツ心理学からみた研究アプローチ			体育・スポーツの心理学的側面（1時間）		
8	池田 孝博	体育・スポーツ測定評価学からみた研究アプローチ			体育・スポーツ測定評価学の概要（1時間）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	体育・スポーツの学際的科学論		授業形態	講義	授業科目区分	共通科目 (共通)	
担当教員名	森 司朗・井福 裕俊・坂本 将基・梶 ちか子・堀内 雅弘・塩瀬 圭佑・小崎 亮輔				補助担当者名		
単位数	1 単位		履修年次	-		受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	複雑な現代社会において、心身の健康の維持・向上の問題を解決するためには、より学際的かつ複合的な視点から体育学・スポーツ科学をとらえる必要がある。 本講義では、この視点から、複合領域の「体育学」「スポーツ科学」に関して身体教育学系、スポーツ科学系、応用健康科学系の3つの研究分野から各専門分野の教員がオムニバス形式で解説を行う。これにより、複合領域としての体育学・スポーツ科学の学問特性に関する基礎的知識を修得し、高度な専門的指導者としての教養を身につけることを目的とする。						
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	上記の条件で総合的に評価する。授業への取り組み状況の評価は、自分の考えを適切に表現できるかを重視する。						
テキスト、教材 参 考 書	随時提供する。						
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー							
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	森 司朗	体育学における他領域への貢献を考える			体育学の研究領域について（1時間）		
2	塩瀬 圭佑	健康と運動生理生化学からみた研究アプローチ			身体運動と健康について（1時間）		
3	梶 ちか子	体育科教育からみた研究アプローチ			身体性と健康づくり（1時間）		
4	井福 裕俊	循環システム学からみた研究アプローチ			身体運動と心臓循環機能（1時間）		
5	小崎 亮輔	運動発達支援・質的研究手法からみた研究アプローチ			体発達支援と質的研究について（1時間）		
6	坂本 将基	運動制御学からみた研究アプローチ			身体運動と脳・神経および健康（1時間）		
7	堀内 雅弘	運動生理学からみた研究アプローチ（仮）			授業内容の予習と復習（1時間）		
8	森 司朗	体育学における他領域への貢献を考える			体育学の研究領域の学際性（1時間）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特殊研究・実習（フィールドワーク型：30時間）		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	研究科教務委員会・金高 宏文・梶 ちか子・石原 豊一				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。また、文部科学省は小学校高学年での「教科担任制」の導入を進めており、「体育」も対象教科となっている。 本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネイト）を行えることを目標としている。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大3単位とし、その場合の実習は60時間以上とする。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み，レポート，実習（模擬授業）の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜，提示する．					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること		備考(教員メッ セージ含む)	フィールドワーク型の演習・実習を実施する受入先は、原則、鹿屋市内の小学校とする。		
オフィス・アワー	随時：研究棟7階 703教員室（梶） 要予約：大学院棟3階 4教員研究室（金高）メールにて事前に連絡のこと．					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	金高 宏文 梶 ちか子	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
3	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
4	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
5	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
6	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 演習・実習の期間 ・2単位の場合は、実習30コマ（30時間：積み上げ） ・4単位の場合は、実習60コマ（60時間：積み上げ）			実習の準備と整理(120分)	
7	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の準備(60分)	
15	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の振り返り(60分)	
16	〃	全体省察				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特殊研究・実習（フィールドワーク型：60時間）		授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	研究科教務委員会・金高 宏文・梶 ちか子・石原 豊一				補助担当者名	
単位数	3 単位		履修年次	-	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	今日、小学校における体育科教育では、教師の「実践的指導力」の向上が求められている。また、文部科学省は小学校高学年での「教科担任制」の導入を進めており、「体育」も対象教科となっている。 本授業では、大学内で行う演習等で身につけた知識や指導スキルを活用し、大学外で実際に小学校の体育授業の指導補助や授業支援を行う。学校現場での複数回の指導補助や授業支援の実習を通して、小学校における教員のニーズに対応した、体育科教育における学習支援（コーディネイト）を行えることを目標としている。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先（原則、鹿屋市内の小学校）での活動が中心になる。修得できる単位は3単位とし、その場合の実習は60時間以上とする。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（○）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（○）					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業・打ち合わせへの積極的な取り組み，レポート，実習（模擬授業）の内容により総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜，提示する．					
履修条件・ 関連科目	中学校の保健体育科の教員免許状を有していること		備考(教員メッ セージ含む)	フィールドワーク型の演習・実習を実施する受入先は、原則、鹿屋市内の小学校とする。		
オフィス・アワー	随時：研究棟7階 703教員室（梶） 要予約：大学院棟3階 4教員研究室（金高）メールにて事前に連絡のこと．					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	金高 宏文 梶 ちか子	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容			授業の復習(30分)	
2	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
3	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
4	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
5	〃	事前学修（理論学習，模擬授業，教材開発等）			事前学修の準備と復習(60分)	
6	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察 演習・実習の期間 ・実習60コマ（60時間：積み上げ）			実習の準備と整理(120分)	
7	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
8	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
9	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
10	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
11	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
12	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
13	〃	・小学校体育授業担当教員とのグループディスカッション ・共同での単元計画・指導案作成 ・授業（補助） ・授業の省察			実習の準備と整理(120分)	
14	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の準備(60分)	
15	〃	小学校体育授業補助体験の実践発表			発表の振り返り(60分)	
16	〃	全体省察				

授業科目名 (ナンバリングコード)	コープ特殊研究・実習（インターンシップ型：60時間）	授業形態	演習・実習	授業科目区分	共通科目 (共通)
担当教員名	研究科教務委員会			補助担当者名	
単位数	2 単位	履修年次	-	受け入れ人数	2-3
授業の概要 及び達成目標	本演習・実習は、博士後期課程の学生を対象とし、「国民のニーズに応じた適切なスポーツ指導指導やプログラム開発及びマネジメント、トップアスリートに対する科学的なトレーニング指導やメニュー開発ができる能力を備えた高度専門職業人として中核的な役割を担う人材を養成する」ために、大学内で身につけた知識や指導・研究スキルを活用し、大学外で実際に指導、研究、実務の実習を行うものである。産業界（研究機構を含む）と連携するものは「インターンシップ型」の実習では、大学外で実際に研究・開発機関等で研究・開発補助や研究・開発支援を行う。研究・開発機関での研究・開発補助や研究・開発支援の実習を通して、研究・開発機関等のニーズに対応した、研究・開発等を行えることを目標とする。 本演習・実習は、事前・事後学修と大学外の集中的な実習先での活動が中心になる。修得できる単位は最大4単位とし、その場合の実習は90時間以上とする。				
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業（演習・実習）への取り組み状況（60％） ■ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。				
成績評価の基準	・事前学習、大学と実習先との往還で行う演習活動、実習活動、事後活動を総合的に判断して評価する。 ・実習先での実習者の資質・能力も評価も加える。				
テキスト、教材 参 考 書	適宜、提示する。				
履修条件・ 関連科目	インターンシップ型の演習・実習する研究・開発機関等で求められる資質・能力の要件があると研究指導教員が認める学生であること。	備考(教員メッセージ含む)	インターンシップ型の演習・実習する受入先は、原則、国内の研究・開発機関等とする。		
オフィス・アワー					
授業計画					
回	担当教員名	授業内容		授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	研究科教務委員会	オリエンテーション コープ実習の目的・意義・内容		授業の復習と演習・実習計画等の立案(60分)	
2	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
3	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
4	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
5	"	インターンシップ型の実習先の事前学修 (研究計画の立案も含む等)		事前学修の準備と復習(60分)	
6	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修 演習・実習の期間 ・2単位の場合は、実習60コマ（60時間：2週間） ・4単位の場合は、実習90コマ（90時間：3週間）		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
7	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
8	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
9	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
10	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
11	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
12	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
13	"	・インターンシップ型の実習先でのグループディスカッション・ミーティングへの参加 ・インターンシップ型実習先での研究・開発活動 ・インターンシップ型実習先での視察研修		・日々の実習のタイムスケジュール管理等（30分） ・日々の実習の振り返り（30分）	
14	"	インターンシップ型の実習の取組発表		発表の準備(60-120分)	
15	"	インターンシップ型の実習の取組の振り返り 総括		発表の振り返り(60分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	高橋 仁大・金高 宏文・三浦 健・中村 夏実・竹中 健太郎・永原 隆・藤井 雅文				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	国内外の雑誌に掲載されているコーチングに関する文献を概観し、コーチング学のトレンドを理解する。また、文献講読を通じてコーチングの汎用的原理・原則や種目特性に基づいたコーチングの原理・原則を理解し、実践現場での応用可能性についてディスカッションする。コーチング理論は、実践現場での試行錯誤から産み出されるものでもあることから、実践現場での事例を基にした実践的なコーチング手法についてもディスカッションを行い、自身のコーチング理論を構築することを目指す。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（50％） ■ レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回講義の話題に対するディスカッションを行い、その良否を得点化する。また、各自のプレゼンテーションのできばえ（論理性・話題性・図表の利用能力・聞きやすさ・質疑応答能力）を得点化する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料等は適時配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	競技経験のある者またはコーチングの現場に立った経験のある者で、かつ修士レベルまでに科学的な思考を身につけている者の受講を希望する。		
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 金高（大学院棟3階 4教員研究室） 三浦（研究棟8階807教員研究室） 中村（研究棟7階710教員研究室または海洋スポーツセンター） 竹中（研究棟5階507教員研究室） 永原（大学院棟3階 1教員研究室） 藤井（研究棟8階804教員研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	コーチング実践の歴史および現状とスポーツ科学の役割 ～ bridge the gap の理解 ～			講義内容の予習と復習（1時間）	
2	＂	諸科学分野の学領域および方法論の理解とコーチング学			講義内容の予習と復習（1時間）	
3	＂	スポーツ科学の理論体系とコーチング学の位置づけ			講義内容の予習と復習（1時間）	
4	中村 夏実	実践的な問題解決のための思考法に関する理論・方法論			講義内容の予習と復習（1時間）	
5	＂	コーチング学研究の現状			講義内容の予習と復習（1時間）	
6	竹中 健太郎	コーチング学研究の方法とその可能性			講義内容の予習と復習（1時間）	
7	＂	プレゼンテーション - 1 -			講義内容の予習と復習（1時間）	
8	金高 宏文	コーチング学研究成果の有用性と価値			講義内容の予習と復習（1時間）	
9	＂	コーチング学研究論文の書き方			講義内容の予習と復習（1時間）	
10	三浦 健	コーチング学研究成果の発表および取り扱い方			講義内容の予習と復習（1時間）	
11	＂	プレゼンテーション - 2 -			講義内容の予習と復習（1時間）	
12	藤井 雅文	コーチング学研究のプロポーザルの作成例 1			講義内容の予習と復習（1時間）	
13	＂	コーチング学研究のプロポーザルの作成例 2			講義内容の予習と復習（1時間）	
14	永原 隆	コーチング学研究のプロポーザルの作成例 3			講義内容の予習と復習（1時間）	
15	＂	プレゼンテーション - 3 -			講義内容の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	コーチング学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	高橋 仁大・金高 宏文・三浦 健・中村 夏実・竹中 健太郎・永原 隆・藤井 雅文				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	国内外の雑誌に掲載されているコーチング学に関する論文を概観し、具体的な論文の傾向について理解する。さらに、コーチング学特殊研究による講義内容を踏まえて、仮説創出型研究の立場からコーチングに関する研究の進め方や方法について演習する。さらに、コーチング学研究の問題点や可能性について議論するとともに、実践現場でのコーチング事例を基にコーチング学研究やスポーツパフォーマンス研究への論文投稿を目指す。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（50％） ■ レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	毎回の話題に対するディスカッションを行い、その良否を得点化する。また、各自のプレゼンテーションのできばえ（論理性・話題性・図表の利用能力・聞きやすさ・質疑応答能力）を得点化する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料等は適時配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	競技経験のある者またはコーチングの現場に立った経験のある者で、かつ修士レベルまでに科学的な思考を身につけている者の受講を希望する。		
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（SPORTECスポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 金高（大学院棟3階 4教員研究室） 三浦（研究棟8階807教員研究室） 中村（研究棟7階710教員研究室または海洋スポーツセンター） 竹中（研究棟5階507教員研究室） 永原（大学院棟3階 1教員研究室） 藤井（研究棟8階804教員研究室）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高橋 仁大	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の検索と整理			講義内容の予習と復習（1時間）	
2	〃	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の位置づけ			講義内容の予習と復習（1時間）	
3	〃	プレゼンテーション - 1 -			講義内容の予習と復習（1時間）	
4	中村 夏実	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の紹介と講読 1			講義内容の予習と復習（1時間）	
5	〃	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の紹介と講読 2			講義内容の予習と復習（1時間）	
6	竹中 健太郎	コーチング学研究に関連する学術論文および著書の紹介と講読 3			講義内容の予習と復習（1時間）	
7	〃	プレゼンテーション - 2 -			講義内容の予習と復習（1時間）	
8	金高 宏文	コーチング学研究に関する論文の作成 1			講義内容の予習と復習（1時間）	
9	〃	コーチング学研究に関する論文の作成 2			講義内容の予習と復習（1時間）	
10	三浦 健	コーチング学研究に関する論文の作成 3			講義内容の予習と復習（1時間）	
11	〃	プレゼンテーション - 3 -			講義内容の予習と復習（1時間）	
12	藤井 雅文	コーチング学研究に関する論文の作成 4			講義内容の予習と復習（1時間）	
13	〃	コーチング学研究に関する論文の作成 5			講義内容の予習と復習（1時間）	
14	永原 隆	コーチング学研究に関する論文の作成 6			講義内容の予習と復習（1時間）	
15	〃	プレゼンテーション - 4 -			講義内容の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスリート・トレーニング科学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	星川 雅子・横澤 俊治・山下 大地				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	アスリートは、限界に挑戦して目標を達成することによって、満足すべき生活環境を確保するプロセスを社会に提示している。その達成のためには多くの要素が関係するが、本講義では体力と技術の要素に絞ってそのトレーニングについて研究する。ただし、両者はお互いに影響を及ぼし、一方への傾斜による１つのトレーニング分類があることは留意しておきたい。アスリートを対象としたトレーニング科学研究および支援の歴史、その在り方と意義、そして、実際の日本トップアスリートにおけるトレーニング研究・支援の実際、と進めることにする。論文作成に必要な専門知識を修得することを達成目標とする。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ 20 ％） ■ 授業への取り組み状況（60％） ■ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義の内容と執筆計画論文の内容との関連をレポートしてもらい、その練成度を基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	Physiological Test for Elite Athletes. Australian Sports Commission, Human Kinetics 国内外の研究論文を適宜購読					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	星川 雅子 横澤 俊治 山下 大地	アスリート・トレーニング科学の歴史			復習（2時間）	
2	〃	アスリート・トレーニング科学研究の在り方・意義			復習（2時間）	
3	〃	アスリート・トレーニング科学支援の在り方・意義			復習（2時間）	
4	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学研究の実際 1			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
5	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学研究の実際 2			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
6	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学研究の実際 3			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
7	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学研究の実際 4			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
8	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学研究の実際 5			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
9	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学研究の実際 6			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
10	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学支援の実際 1			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
11	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学支援の実際 2			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
12	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学支援の実際 3			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
13	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学支援の実際 4			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
14	〃	日本のトップアスリート・トレーニング科学支援の実際 5			予習（1時間）、参考論文を読む（1時間）	
15	〃	総括と評価			レポート作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	アスリート・トレーニング科学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	星川 雅子・横澤 俊治・山下 大地				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	アスリートは、目標を達成するために日々トレーニングに励んでいる。そのアスリート間にある僅差のトレーニング効果を測定・評価するためには、あるいはその類い稀な体力あるいは技術をより向上させるためには、新たな知見を創出しなければならない。本講義では、これまでのトレーニングに関する研究成果を理解・検証するとともに、創出のために自らの課題を見出して演習を行う。課題を解決するための研究方法を修得することを達成目標とする。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（60％） ■ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	講義の内容と執筆計画論文の内容との関連をレポートしてもらい、その練成度を基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されているハイパフォーマンスアスリート対象のトレーニング科学に関する論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	星川 雅子 横澤 俊治 山下 大地	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 1			文献を用いた情報収集・整理	
2	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 2			文献を用いた情報収集・整理	
3	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 3			文献を用いた情報収集・整理	
4	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 4			文献を用いた情報収集・整理	
5	〃	アスリート・トレーニング科学研究に関する学術論文の抄読と討論 5			文献を用いた情報収集・整理	
6	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 1			資料等の作成（1時間）	
7	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 2			資料等の作成（1時間）	
8	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 3			資料等の作成（1時間）	
9	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 4			資料等の作成（1時間）	
10	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 5			資料等の作成（1時間）	
11	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 6			資料等の作成（1時間）	
12	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 7			資料等の作成（1時間）	
13	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 8			資料等の作成（1時間）	
14	〃	各自テーマにおけるアスリート・トレーニング科学研究成果の発表と討議 9			資料等の作成（1時間）	
15	〃	総合討論			レポート作成（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究A		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	坂本 将基・井福 裕俊・小澤 雄二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るためには、スポーツや運動に対する学際的な理解が重要となる。 本授業では、運動・コーチ学、随意運動制御の基礎、運動時の循環調節などについて幅広く理解を深めるとともに、それらと身体教育の関連について検討していく。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考資料等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	坂本 将基 井福 裕俊 小澤 雄二	オリエンテーション				
2	小澤 雄二	運動学・コーチ学の視点（1）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
3	〃	運動学・コーチ学の視点（2）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
4	〃	運動学・コーチ学の視点（3）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
5	〃	運動学・コーチ学の視点（4）			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
6	坂本 将基	随意運動制御の基礎（1）脊髄			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
7	〃	随意運動制御の基礎（2）小脳・大脳基底核			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
8	〃	随意運動制御の基礎（3）骨格筋			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
9	〃	随意運動制御の基礎（4）大脳皮質			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
10	〃	随意運動制御の基礎（5）運動学習			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
11	井福 裕俊	運動時の循環調節（1）心臓			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
12	〃	運動時の循環調節（2）血圧			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
13	〃	運動時の循環調節（3）微小循環			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
14	〃	運動時の循環調節（4）運動昇圧反射			授業内容をまとめて後日提出する（30分）	
15	坂本 将基 井福 裕俊 小澤 雄二	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究演習A		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	坂本 将基・井福 裕俊・小澤 雄二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	身体教育特殊研究Aの内容をふまえて、スポーツや運動を身体教育として捉え、かつそれらの分野に関する研究の視点を得るために、関連する著書や研究論文を抄読し、身体教育のためのスポーツや運動に応用できる知識と技術を身につける。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（60％） ■ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート課題の成績と授業への取り組みから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	論文等は事前に配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	坂本 将基 井福 裕俊 小澤 雄二	オリエンテーション				
2	小澤 雄二	運動学・コーチ学演習（1）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
3	〃	運動学・コーチ学演習（2）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
4	〃	運動学・コーチ学演習（3）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
5	〃	運動学・コーチ学演習（4）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
6	坂本 将基	随意運動制御演習（1）脊髄反射			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
7	〃	随意運動制御演習（2）平衡機能と眼球運動			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
8	〃	随意運動制御演習（3）筋力と筋疲労			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
9	〃	随意運動制御演習（4）運動野と体性感覚野			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
10	〃	随意運動制御演習（5）到達運動			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
11	井福 裕俊	運動負荷時の循環応答（演習）（1）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
12	〃	運動負荷時の循環応答（演習）（2）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
13	〃	運動負荷時の循環応答（演習）（3）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
14	〃	運動負荷時の循環応答（演習）（4）			抄読論文の要旨を事前にまとめてくる（1時間）	
15	坂本 将基 井福 裕俊 小澤 雄二	総合討論				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究B		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	本特講では、健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性について理解を深めることを目的とする。特に運動や食事による代謝、身体組成、運動パフォーマンスへの影響を生理・生化学的視点から学び、それらを正確に評価するための方法論について議論する。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績 (%) ■ 授業への取り組み状況 (50%) ■ レポート等の提出状況 (50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	健康の保持増進およびスポーツパフォーマンス向上のための運動と食事の重要性について科学背景を基に十分説明できる。 運動と食事の効果を検証するための研究能力を有する。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	運動と代謝・身体組成 イントロダクション			講義内容の復習、予習 (1時間)	
2	〃	運動や食事と代謝機能：分子メカニズム			講義内容の復習、予習 (1時間)	
3	〃	エネルギー代謝評価の方法論Ⅰ (間接熱量法)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
4	〃	エネルギー代謝評価の方法論Ⅱ (安定同位体希釈法)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
5	〃	エネルギー代謝評価の方法論Ⅲ (活動量計)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
6	〃	エネルギー代謝評価の方法論Ⅳ (生化学的手法)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
7	〃	身体組成評価の方法論Ⅰ (身体密度法)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
8	〃	身体組成評価の方法論Ⅱ (画像法)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
9	〃	身体組成評価の方法論Ⅲ (BIA法)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
10	〃	体力・パフォーマンス評価の方法論Ⅰ (無酸素性運動)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
11	〃	体力・パフォーマンス評価の方法論Ⅱ (有酸素性作業能)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
12	〃	体力・パフォーマンス評価の方法論Ⅱ (フィールドテスト)			講義内容の復習、予習 (1時間)	
13	〃	運動や食事に関する研究Ⅰ (デザイン)			プレゼンテーション課題 (1時間)	
14	〃	運動や食事に関する研究Ⅱ (プレゼンテーション)			プレゼンテーション課題 (1時間)	
15	〃	運動や食事に関する研究Ⅰ (プレゼンテーション)			プレゼンテーション課題 (1時間)	
16	〃	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	身体教育特殊研究演習B		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ・武道実践科学)
担当教員名	塩瀬 圭佑				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	5名程度
授業の概要 及び達成目標	身体教育特殊研究Bの学習内容をふまえて、運動と代謝・身体組成、またはこれらに及ぼす栄養の影響に関する著書や研究論文を抄読し、健康づくりや競技パフォーマンス向上に応用できる知識と技能を身につける。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（50％） ■ レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	運動と代謝・身体組成、またはこれらに及ぼす栄養状態の影響に関する著書や研究論文を抄読し、内容を理解できている。					
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	塩瀬 圭佑	運動・食事と代謝に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
2	〃	運動・食事と代謝に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
3	〃	運動・食事と代謝に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
4	〃	運動・食事と代謝に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
5	〃	運動・食事と代謝に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
6	〃	運動・食事と身体組成に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
7	〃	運動・食事と身体組成に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
8	〃	運動・食事と身体組成に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
9	〃	運動・食事と身体組成に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
10	〃	トレーニング方法とその効果に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
11	〃	トレーニング方法とその効果に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
12	〃	トレーニング方法とその効果に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
13	〃	トレーニング方法とその効果に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
14	〃	トレーニング方法とその効果に関する著書・論文を抄読する			講義内容の復習、予習（1時間）	
15	〃	総括			レポート3時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	廣津 匡隆				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツ外傷・障害（傷害）からの復帰時のリハビリテーションは、医療機関で主として行われるメディカル・リハビリテーションと、実際のスポーツ現場を舞台とするアスレティック・リハビリテーションとに大別される。後者について代表的なスポーツ傷害を中心に取り扱い、実際に予防・復帰・再発防止などを行う際のポイントについて解説し、考究する。さらに、近年競技人口を増している中高年健康維持スポーツ、身体障がい者スポーツなどに関しても考究する（双方向型）。 なお、本授業では、上記のスポーツ・リハビリテーション方法などにおける理論的事項の熟知をめざす。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（80％） ■ レポート等の提出状況（20％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	提出されたレポート（必須）の内容を評価する。出席・授業への取組み状況を、適時に判定する。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書...「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」小出清一ら編集（南江堂） 「車椅子マラソン - 医・科学的研究と実践指導 - 」赤嶺卓哉他著（不昧堂）、「スポーツリハビリテーションの臨床」青木治人他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	廣津：水曜日10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室（要予約）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	廣津 匡隆	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患の予防			整形外科的疾患予防についての資料を読む。（1時間）	
2	〃	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患に対する運動療法			整形外科的疾患に対する運動療法についての資料を読む。（1時間）	
3	〃	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患からのスポーツ現場復帰			整形外科的疾患からのスポーツ現場復帰についての資料を読む。（1時間）	
4	〃	スポーツ・リハビリテーション医科学における整形外科的疾患に対する再発防止対策（テーピング、PNFトレーニング、スポーツ・マッサージなどを含む）			整形外科的疾患に対する再発防止対策についての資料を読む。（1時間）	
5	〃	腰痛・関節疾患症例に対する運動処方法			腰痛・関節疾患の運動処方法についての資料を読む。（1時間）	
6	〃	中高年・女性・小児における各特性と運動処方法			中高年・女性・小児の各特性・運動処方法についての資料を読む。（1時間）	
7	〃	骨粗鬆症例・リウマチ関節症例における運動処方法			骨粗鬆症例・リウマチ関節症例の運動処方法についての資料を読む。（1時間）	
8	〃	障がい者スポーツ（留意点、指導方法など）			障がい者スポーツについての資料を読む。（1時間）	
9	〃	運動と骨代謝（基礎的研究成果、臨床応用研究など）			運動・骨代謝についての資料を読む。（1時間）	
10	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（頭・頸部）			リハビリテーション（頭・頸部）についての資料を読む。（1時間）	
11	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（上肢）			リハビリテーション（上肢）についての資料を読む。（1時間）	
12	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（体幹）			リハビリテーション（体幹）についての資料を読む。（1時間）	
13	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（腰部・股関節）			リハビリテーション（腰部・股関節）についての資料を読む。（1時間）	
14	〃	スポーツ傷害後のリハビリテーション（下肢）			リハビリテーション（下肢）についての資料を読む、スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポート作成の準備をする。（2時間）	
15	〃	本授業の総括とレポート			スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポートを作成し提出する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ・リハビリテーション医科学特殊研究演習		授業形態	演習		授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	廣津 匡隆				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	実際のスポーツ現場を舞台とするアスレティック・リハビリテーションにおける、代表的なスポーツ外傷・障害を中心に取り扱い、考究する。実際に予防・復帰・再発防止などを行う際の重要事項について解説し、演習を行う。また、中高年健康維持スポーツ、身体障がい者スポーツ、骨関節疾患症例へのリハビリテーション処方法などに関しても考究し、演習を行う（双方向型）。 さらに、上記の演習項目に関する題材を、論文化するための手法・技法の習熟をもめざす。						
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	提出されたレポート（必須）の内容を評価する。出席・授業への取組み状況を、適時に判定する。						
テキスト、教材 参 考 書	参考書...「スポーツ整形外科学」松本秀男他著（文光堂）、「身体障害者スポーツ」Guttmann,L.著（医歯薬出版）、「スポーツリハビリテーションの臨床」青木治人他著（メディカル・サイエンス・インターナショナル）						
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	廣津：水曜日 10時30分～11時30分 研究棟3階 304研究室（要予約）						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	廣津 匡隆	スポーツによる膝靱帯損傷と治療				スポーツによる膝靱帯損傷と治療についての資料を読む。（1時間）	
2	"	スポーツによる半月板損傷と治療				スポーツによる半月板損傷と治療についての資料を読む。（1時間）	
3	"	オーバーユースによる膝障害の特徴と治療				オーバーユースによる膝障害の特徴と治療についての資料を読む。（1時間）	
4	"	変形性膝関節症に対する治療				変形性膝関節症に対する治療についての資料を読む。（1時間）	
5	"	スポーツにおける足関節・足部疾患の特徴と治療				スポーツにおける足関節・足部疾患の特徴と治療についての資料を読む。（1時間）	
6	"	投球障害肩・肘の特徴とリハビリテーション				投球障害肩・肘の特徴とリハビリテーションについての資料を読む。（1時間）	
7	"	長距離ランナーにおける下肢外傷について				長距離ランナーにおける下肢外傷についての資料を読む。（1時間）	
8	"	スポーツにおける股関節周囲の痛みの特徴と治療				スポーツにおける股関節周囲の痛みの特徴と治療についての資料を読む。（1時間）	
9	"	スポーツに伴う腰椎疾患の治療				スポーツに伴う腰椎疾患の治療についての資料を読む。（1時間）	
10	"	バスケットボールに特徴的な外傷と予防・治療				バスケットボールに特徴的な外傷と予防・治療についての資料を読む。（1時間）	
11	"	サッカーに特徴的な外傷と予防・治療				サッカーに特徴的な外傷と予防・治療についての資料を読む。（1時間）	
12	"	車椅子マラソン - 医・科学的研究と実践指導 -				車椅子マラソンについての資料を読む。（1時間）	
13	"	身体障がい者車椅子バスケットボールにおける運動の効果 - 健常者スポーツとの比較を含めて -				身体障がい者車椅子バスケットボールについての資料を読む。（1時間）	
14	"	女性アスリートのスポーツ障害について				女性アスリートのスポーツ障害についての資料を読む。 スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポート作成準備をする（2時間）	
15	"	中高年アスリートのスポーツ障害について 本授業の総括とレポート				中高年アスリートのスポーツ障害についての資料を読む。 スポーツ・リハビリテーション医科学に関するレポートを作成し提出する（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	中垣内 真樹・沼尾 成晴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	ヒトは様々な生理的環境の中でダイナミックに適応し、心身の調整を図り、生命を維持している。現代社会は高齢人口の増加とともに同時にライフパンが長くなり、いかに長期に健康や機能を維持するかという大きな課題がある。加齢や非活動的なライフスタイルは心身の状態に大きくマイナスに作用するとみられているが、身体に対する内外の環境による変化や影響を理解するとともに長期にダイナミックに適応して高い機能を維持する上で運動やスポーツがその手段として利用できることが期待されている。関連する先行研究を学び、課題や問題点を認識するとともに新しい研究や体育学研究のあり方を考究する。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ % ） ■ 授業への取組み状況（50％） ■ レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜必要に応じて配布又は指示する。 参考書：「運動処方の指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟4階 407研究室 沼尾：研究棟4階 406研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	オリエンテーション			文献の予習（1時間）	
2	〃	不活動に伴う身体の変化			文献の予習・復習（1時間）	
3	〃	加齢による機能の変化 - 呼吸循環機能			文献の予習・復習（1時間）	
4	〃	加齢による機能の変化 - 筋機能			文献の予習・復習（1時間）	
5	〃	加齢による機能の変化 - バランス，柔軟性			文献の予習・復習（1時間）	
6	〃	ExerciseとPhysical activity			文献の予習・復習（1時間）	
7	〃	身体運動による生理的効果 - 呼吸循環機能			文献の予習・復習（1時間）	
8	〃	身体運動による生理的効果 - 筋機能			文献の予習・復習（1時間）	
9	〃	元気高齢者の体力水準と運動効果			文献の予習・復習（1時間）	
10	〃	地域型運動の有効性，運動の場の選択			文献の予習・復習（1時間）	
11	〃	虚弱者支援のための運動方法			文献の予習・復習（1時間）	
12	〃	Physical Activity向上のための工夫			文献の予習・復習（1時間）	
13	〃	自立度評価のための客観的指標作成			文献の予習・復習（1時間）	
14	〃	転倒予防を目指す運動のあり方について			文献の予習・復習（1時間）	
15	〃	Exerciseの変遷とこれからの展開			文献の予習・復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	ヘルスサイエンス特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	中垣内 真樹・沼尾 成晴				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	ヒトは様々な環境の中でダイナミックに適応し、心身の調整を図り、生命を維持している。現代社会は高齢人口の増加とともに同時にライフスパンが長くなり、いかに長年に健康や機能を維持するかという大きな課題がある。加齢や非活動的なライフスタイルは心身の状態に大きくマイナスに作用するとみられているが、身体に対する内外の環境による変化や影響を理解するとともに長年にダイナミックに適応して高い機能を維持する上で運動やスポーツがその手段として利用できることが期待されている。関連する先行研究を学び、課題や問題点を認識するとともに新しい研究方法や体育学研究に関連する測定評価分析法を学ぶ。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ % ） ■ 授業への取組み状況（50％） ■ レポート等の提出状況（50％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	学習内容のプレゼンテーションとディスカッションを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜必要に応じて配布又は指示する。 参考書：「運動処方の指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳、南江堂、2011年、3850円）					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時 中垣内：研究棟4階 407研究室 沼尾：研究棟4階 406研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	中垣内 真樹 沼尾 成晴	オリエンテーション			文献の予習（1時間）	
2	＂	不活動に伴う身体の変化 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
3	＂	加齢による機能の変化 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
4	＂	生理機能，身体活動量の季節変動 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
5	＂	老化に関する文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
6	＂	ExerciseとPhysical activity - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
7	＂	身体運動による生理的效果 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
8	＂	身体運動による生理的效果 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
9	＂	高齢競技者の体力水準と運動効果 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
10	＂	地域型運動の有効性 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
11	＂	虚弱者支援のための運動方法 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
12	＂	Physical Activity向上のための工夫-文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
13	＂	Physical Activity向上のための工夫-文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
14	＂	転倒予防を目指す運動 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	
15	＂	単一運動と複合運動 - 文献抄読と討論			文献の予習・復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	国内外の学術誌に掲載された運動処方および健康・体力の増進に関連したトレーニングに関する文献を精読し、それぞれの運動が形態や身体機能に及ぼす効果について論究する。授業では論文を構成する各要素（緒言、方法、結果、考察、結論）の内容についての発表および議論を通して、研究成果を公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ % ） ■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さを総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	授業開催日と開催方法は履修者と相談のうえ変更することがあります。		
オフィス・アワー	随時：まずはメールで相談を（fujita@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	"	身体組成と負のエネルギー出納バランス			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	"	身体組成と持久性トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	"	身体組成と筋力・パワートレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	"	筋力・筋サイズと局所トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	"	筋力・筋サイズと全身トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	"	呼吸循環機能と持久性トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	"	持久性と筋力の複合トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	"	様々な対象に対するトレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	"	不活動が形態と身体機能に及ぼす影響			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	"	スポーツパフォーマンスと持久性トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	"	スポーツパフォーマンスと筋力トレーニング			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	"	効果の測定内容とデータの分析			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	"	プレゼンテーション&ディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	"	まとめ			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	"	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	運動処方論特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (ｽﾎｰﾙｽﾞ生命科学)
担当教員名	藤田 英二				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動処方に関する従来の研究報告に基づき、運動処方の研究領域において採用されている実験デザイン、データの取得と分析の方法およびその解釈について、プレゼンテーションおよびディスカッションを繰り返しながら、研究成果を公表する能力の向上をめざす。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ % ） ■ 授業への取り組み状況（ 40％ ） ■ レポート等の提出状況（ 60％ ）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業への取り組み、発表要旨・プレゼンテーションの内容とその「できばえ」、ディスカッションへの参加および質疑応答の的確さ等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学会誌等に掲載されている運動処方およびトレーニング科学に関連する論文					
履修条件・ 関連科目	前期の「運動処方論特殊研究」を履修済みであること。		備考(教員メッセージ含む)	授業開催日と開催方法は履修者と相談のうえ変更することがあります。		
オフィス・アワー	随時：まずはメルにて相談を（ fujita@nifs-k.ac.jp ）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	藤田 英二	オリエンテーション				
2	"	実験デザイン 不活動の影響			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
3	"	実験デザイン ウェイトコントロール			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
4	"	実験デザイン 呼吸循環機能の運動処方			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
5	"	実験デザイン 筋機能・運動機能の運動処方			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
6	"	実験デザイン 柔軟性の運動処方			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
7	"	データの取得・分析 形態・身体組成			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
8	"	データの取得・分析 呼吸・循環機能			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
9	"	データの取得・分析 筋機能・運動機能			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
10	"	データの取得・分析 柔軟性			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
11	"	プレゼンテーション&ディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
12	"	プレゼンテーション&ディスカッション			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
13	"	データのまとめと論文の構成			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
14	"	データのまとめと論文の構成			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
15	"	データのまとめと論文の構成			配布資料を参考に予習を行う。また、授業終了後も振り返りを行い、理解できなかった点について復習を行うこと。（1時間程度）	
16	"	試験は実施しない				

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	高井 洋平				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツ競技力の向上、身体能力の改善を目的とするトレーニングに関して、体力と技術の面から科学的基礎および応用について論ずる。身体運動の遂行の諸条件について、有酸素・無酸素性パワーの向上、神経系による調節の仕組みなどについて運動生理学的に理解する。特に各年齢における最適な運動刺激、形態や身体機能に影響を及ぼすトレーニング効果、また合理的に運動の技術を獲得するために運動分析の手法（筋電図、筋出力、映像等）について考究する。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（60％） ■ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容（Powerpointでのpresentationの評価、質疑に対する受け答え）、座長担当の評価を総合的に評価する。また討論への積極的な参加態度を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	・ 福永哲夫・山本正嘉編著『体育・スポーツにおける実践研究の考え方と論文の書き方』市村出版 ・ 山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版） ・ 国内外の研究論文を適宜講読する。					
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 （高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp）					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平	神経支配と運動制御のトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
2	＂	骨格筋とトレーニング（1）			授業の予習と復習（1時間）	
3	＂	骨格筋とトレーニング（2）			授業の予習と復習（1時間）	
4	＂	最大筋力向上要因と筋力トレーニング（1）			授業の予習と復習（1時間）	
5	＂	最大筋力向上要因と筋力トレーニング（2）			授業の予習と復習（1時間）	
6	＂	エネルギー代謝とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
7	＂	呼吸循環系機能とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
8	＂	有酸素性トレーニングの原理と実際（1）			授業の予習と復習（1時間）	
9	＂	有酸素性トレーニングの原理と実際（2）			授業の予習と復習（1時間）	
10	＂	無酸素性トレーニングの原理と実際（1）			授業の予習と復習（1時間）	
11	＂	無酸素性トレーニングの原理と実際（2）			授業の予習と復習（1時間）	
12	＂	競技選手のトレーニングの実際			授業の予習と復習（1時間）	
13	＂	新しいトレーニング法の開発			授業の予習と復習（1時間）	
14	＂	青少年期における発育発達トレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
15	＂	高齢者のトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	トレーニング科学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	高井 洋平				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	各種スポーツの競技力は、これまで限界が無いかのように伸び続けてきたが、トップアスリートの能力は確実に人間の許容限界に迫りつつある。このため今日では、身体を壊すようなリスクを最小限に抑え、かつ効果を最大限に引き出すようなトレーニング法を、科学的な背景に基づいて確立する必要性に迫られている。一方、一般人においては、子供の体力の低下、高齢者の増加による健康の維持・増進といった問題が深刻になっている。本演習では、トップアスリートが行う極限的な体力トレーニングから、一般人（子供から高齢者まで）が行う健康な身体づくりのトレーニングまでを含めて、その最前線の知見を学ぶとともに、よりよいトレーニングの創出について考える。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（60％） ■ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容（Powerpointでのpresentationの評価、質疑に対する受け答え）、座長担当の評価を総合的に評価する。また討論への積極的な参加態度を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の専門誌に掲載された研究論文や解説を随時講読する。 ・山本正嘉 著「アスリート・コーチ・トレーナーのためのトレーニング科学」（市村出版） ・その他 『筋の科学事典』（朝倉書店） 『人間の許容限界事典』（朝倉書店、2005）など					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	英語の論文を多数講読するので、十分な英語読解力が必要である。		
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前にアポイントを取るほうが確実です。 高井：スポーツトレーニング教育研究センター2階・教員室2、y-takai@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	高井 洋平	骨格筋とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
2	＂	神経支配と運動制御のトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
3	＂	青少年期における発育発達とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
4	＂	男性と女性のトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
5	＂	高齢者におけるトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
6	＂	人間の生理的な許容限界とトレーニングの可能性			授業の予習と復習（1時間）	
7	＂	無酸素性作業能力の限界要因とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
8	＂	有酸素性作業能力の限界要因とトレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
9	＂	特殊環境を利用したトレーニング（1）高所（低酸素）トレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
10	＂	特殊環境を利用したトレーニング（2）高酸素トレーニング			授業の予習と復習（1時間）	
11	＂	トレーニング科学の歴史（1）世界における発展			授業の予習と復習（1時間）	
12	＂	トレーニング科学の歴史（1）世界における発展			授業の予習と復習（1時間）	
13	＂	一流スポーツ選手のトレーニングサポートの現状と課題（1）			授業の予習と復習（1時間）	
14	＂	一流スポーツ選手のトレーニングサポートの現状と課題（2）			授業の予習と復習（1時間）	
15	＂	一般人（子供から高齢者）のためのトレーニング開発の現状と未来			授業の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動は、身体内で産生された化学的エネルギーを使って骨格筋を収縮させ、体肢を通じて外的に力・パワー発揮することで遂行される。多くの場合、そのエネルギー産生能力が外的に発揮される機械的パワーの大きさを決定し、結果としてパフォーマンスの優劣を決している。それ故に、エネルギー産生能力に関する研究は、その評価法、効果的トレーニング法、環境要因が及ぼす影響、限定要因の解明など、古くから運動生理学領域における興味を中心として行われてきた。本講義では、運動時の有酸素性、無酸素性エネルギー産生動態のメカニズム、産生能力の限定要因の解明、および運動様式や環境要因がそれらに及ぼす影響など、生体エネルギー論を中心に概説する。特に、有酸素性エネルギー供給動態および環境要因については、酸素運搬に寄与している中心・末梢循環の調節機序と関連させながら、最新の文献、知見を用いて抄読、論議、および解説を展開する。これにより、最新の情報を実際に自分の研究テーマ、実験に当てはめ、応用、考察し、理解をさらに深めさせることが期待できる。なお、授業で使用する教科書、論文は全て英語である。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（ ）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（ ）					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績（％） ☒ 授業への取り組み状況（60％） ☒ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	自らの研究領域を見渡し、現在の国内外における研究の動向や究明されている内容などを理解しているかどうか、および本授業で学んだ循環・代謝の観点から新たな視点で研究をデザインする能力を養えたかどうかを、授業での発表・内容、レポートなどから総合的に評価する。尚、国際学会で発表、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。					
テキスト、教材 参 考 書	参考書 Exercise and Circulation in health and Disease (Bengt Saltin Eds, Human Kinetics) Oxygen Uptake Kinetics in Sports, Exercise and Medicine (Andrew Jones Eds, Taylor and Francis) Human Cardiovascular Control (Rowell LB,Oxford) その他随時紹介					
履修条件・ 関連科目	特にないが、特定のスポーツに関する生理学的応答の授業内容ではなく、より基礎的な生理学の内容であること、これらを英語で理解するために、各自で相応の努力が必要であることを留意してください。		備考(教員メッセージ含む)	スポーツ生理学特殊研究演習と合わせて履修することが望ましい		
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室 mhoruichi@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	堀内 雅弘	Theory and Practics of measuring VO2 kinetics			配付資料の復習（1時間）	
2	＂	Mechanisms of VO2 kinectis #1(regulation of oxygen delivery)			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポート作成準備（1時間）	
3	＂	Mechanisms of VO2 kinectis #2(influence of muscle fiber type)			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポート作成準備（1時間）	
4	＂	Mechanisms of VO2 kinectis #3(implication for disease and aged)			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（1時間）	
5	＂	Reflex control and neural mechanisms for orthostatic tolerance			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
6	＂	Regulation of blood flow #1 (central and active muscle)			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（1時間）	
7	＂	Regulation of blood flow (skin and inactive muscle)			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
8	＂	Cardiovascular response to exercise #1(cenrtal command)			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
9	＂	Cardiovascular respomse to exercise #2(exercise pressore reflex)			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
10	＂	Cerebral blood flow and metabolism #1			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（1時間）	
11	＂	Cerabral blood flow and metabolism #2(implication for cognitive impairment)			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
12	＂	Cardiovascular control during hypoxia			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
13	＂	Cardiovascular control during heat and cold			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
14	＂	Cardiovascular regulation with enducrance training			配付資料の復習と関連論文の検索、およびレポートの作成準備（1時間）	
15	＂	Cardiovascular regulation with aging, disease, and detraining			配付資料の復習と関連論文の検索、および提出レポートの作成（1時間）	
16	＂	総括（実験の仮説を立て、デザインを考える）			上記に必要な文献検索と理解	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生理学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)	
担当教員名	堀内 雅弘				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	運動をしたり、特殊環境に曝露されると、生体における諸生理機能は、合目的に亢進、あるいは抑制され、生体内の恒常性を維持しようと作用する。このような局所的、あるいは全身的に認められる生理応答・適応のメカニズムを理解することは、効果的に生体機能を改善、向上させるためにも重要な意味を持つ。本演習では、様々な強度、様々なタイプにおける身体運動時のエネルギー供給動態、エネルギー産生能力の限定要因、あるいは特殊環境に対するエネルギー供給系の応答変化、それにとまなう中心・末梢循環適応等をテーマとし、受講生が興味を抱くそれぞれのテーマについて、最新のトピックス、論文、総説などを取り上げ、各々発表し、相互に議論を展開する。これによって、学際的に幅広い理解と未解明となっている問題点を明確にし、博士論文執筆にあたり、積極的な理論構築、考察能力を習得することが期待できる。 【授業に含まれる活動】・・・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク（ ）、ディスカッション・討論（○）、プレゼンテーション・発表（○）、フィールドワーク（ ）						
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	自らの研究領域について見渡し、現在の国内外における研究の動向や究明されている内容などを理解しているかどうか、および本授業で学んだ循環・代謝の観点から新たな視点で研究をデザインする能力を養えたかどうかを、授業での発表・内容、レポートなどから総合的に評価する。 尚、国際学会で発表、あるいは学術誌へ投稿した論文が受諾掲載された場合は、上記のレベルにあるとみなす。						
テキスト、教材 参 考 書	関連資料、論文、総説などについては、その都度紹介するが、基本的に論文などは英語論文を用いる						
履修条件・ 関連科目	特にないが、特定のスポーツに関する生理学的応答の授業内容ではなく、より基礎的な生理学の内容であること、これらを英語で理解するために、各自で相応の努力が必要であることを留意してください。			備考(教員メッセージ含む)	スポーツ生理学特殊研究と合わせて履修することが望ましい		
オフィス・アワー	あらかじめ連絡をしてもらえれば随時対応。 研究棟3階 303研究室 mhorichi@nifs-k.ac.jp						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	堀内 雅弘	オリエンテーション（授業進行・内容に関する説明と発表内容、発表順番等の確認）			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
2	＂	運動時の循環系調節1 - 心臓拍出動態と血圧調整機序 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
3	＂	運動時の循環系調節2 - 体肢、活動筋量の違いがもたらす末梢循環系調節機序の差異 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
4	＂	- 運動開始時の中心・末梢循環応答、運動強度にとまなう変化 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
5	＂	- 低酸素が中心循環、末梢循環応答に与える影響 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
6	＂	全身運動時のエネルギー代謝 - 運動持続時間に対する有酸素性・無酸素性エネルギー供給機構の重要性の変化 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
7	＂	全身運動と局所運動 - 運動持続時間、運動強度、エネルギー代謝特性の違い -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
8	＂	運動成績とエネルギー供給能力 - 有酸素性か、無酸素性か？ -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
9	＂	エネルギー供給能力に対する影響因子1 - 活動筋量、循環系能力 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
10	＂	エネルギー供給能力に対する影響因子2 - 特殊環境 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
11	＂	間欠的運動時のエネルギー供給動態 - 運動強度、運動時間、休憩時間、反復回数との関連 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
12	＂	エネルギー代謝特性に応じたトレーニング法1 - 有酸素性・無酸素性エネルギー供給能力を向上させる鍵因子 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
13	＂	エネルギー代謝特性に応じたトレーニング法2 - 持続的運動と間欠的運動がもたらす特異的効果 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
14	＂	特殊環境を利用したトレーニングの影響1 - 低酸素環境下におけるトレーニング効果 -			配布された関連文献を用い、次回分抄読会の準備（1時間）		
15	＂	特殊環境を利用したトレーニングの影響2 - 暑熱環境下におけるトレーニング効果 -			授業全体の中で最も自らの研究に近いテーマを選び、レポートにまとめる（3時間）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体応答メカニズムに準拠した体力・健康の増進の学識と研究能力を養うため、筋骨格系や神経系などが運動実践で円滑に協調的に働くしくみを学ぶ。本授業により、行動体力の各要素を類別し、運動の効果について議論することができる。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	論文の抄読・プレゼンテーションの内容、他者のプレゼンテーションに対する積極的な関わり、自身の研究テーマについての理解等から総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1）運動と体力の生理学，芝山秀太郎著，一橋書店，2）Myology vol.I, Franzini-Armstrong C.編集，McGraw-Hill, (1994) ISBN: 978-0079111340, 3）Fatigue, Gandevia SC編集，Plenum Publishing, (1995), ISBN-13: 978-0306451393, 4）Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集，Human Kinetics, (2008), ISBN: 978-0736058674, 5）神経科学，加藤宏司監訳，西村書店 (2007), ISBN: 978-4890133567. （資料）適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。			備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談のこと。	
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション、体力の構成要素の概要、PubMed、EndNoteの使い方			参考書1を熟読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
2	〃	筋力発現機序：筋細胞の超微細構造と筋収縮のしくみ			参考書2のChapter7を一読し、筋収縮に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
3	〃	骨格筋の疲労と持久力：生体電気発現と筋収縮エネルギーの利用と機能低下			参考書3のSection 1を一読し、神経-筋系の疲労に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	過度な運動や不動による筋損傷、萎縮と再生のしくみ			参考書4のChapter3, 6を一読し、筋損傷と再生に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
5	〃	運動学習の基盤をなす運動刺激による神経-筋機能の可塑的变化			参考書5の25章を一読し、long-term potentiation/depressionに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
6	〃	骨形成と吸収を調節する神経系の働き ～骨の健康維持に神経も活躍する～			配布資料を通読し、骨と神経の関連性に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
7	〃	骨組織における機械的刺激の感受機構と運動の効果 ～骨細胞の老化と運動効果の現れ方～			配布資料を通読し、骨細胞に関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
8	〃	骨組織や骨格筋が分泌する生理活性物質と運動の効果 ～体力、健康への寄与～			配布資料を通読し、マイオカインやオステオカインに関する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
9	與谷 謙吾	神経系に関わる体力要素			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	神経系の体力に関する経年変化：幼少期から成人			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	運動制御に関わる脊髄反射のしくみ：神経と筋の組合せ			参考書5の25章を一読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
12	〃	体力(敏捷性)に関わる反応時間評価と注意点			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	敏捷性：筋力トレーニングに伴う反応時間の変化			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
14	〃	敏捷性：視知覚トレーニングに伴う反応時間の変化			配布資料を精読し、授業内容に関連する文献をPubMed等で調べてEndNote等にデータベース化する。（2時間）	
15	〃	敏捷性：反応時間の変化に伴う転移効果			配布資料を精読しとこれまでの授業内容を整理し、まとめる。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	体力科学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (※ 7-2生命科学)
担当教員名	田巻 弘之・與谷 謙吾				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本科目では、身体活動による生体応答メカニズムに基づく体力・健康増進に関する研究成果を実践に結びつけることを狙いとする。行動体力の基盤となる筋骨格系や神経系がどのように体系的に機能するのかについてプレゼンテーションおよびディスカッションを通して関連研究を整理し、身体活動と生体機能との関係を多面的に学ぶ。これにより、行動体力の各要素を総合的に捉え、運動による健康・体力向上の効果について研究成果を踏まえて議論し、実践に応用する力を身につける。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 出席状況（50％） ■ 授業への取り組み状況（30％） ■ レポート等の提出状況（20％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	担当する発表の内容、質疑応答状況、課題等の提出により点数を加算して総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	（参考書）1)健康・体力のための運動生理学, 石河利寛著, 杏林書院, ISBN:978-4764410435, 2) 計測法入門—計り方, 計る意味, 内山 靖,協同医書出版社 (2001), ISBN:978-4763910301, 3) Fatigue, Gandevia SC編集, Plenum Publishing, (1995), ISBN-13: 978-0306451393, 4) 細胞・組織染色の達人, 大久保和央(著), 羊土社 (2018), ISBN:978-4758122375, 5) 新しい骨形態計測, 遠藤直人監修, ウィネット (2014), ISBN:978-4434190803, 6) Skeletal muscle damage and repair, Tiidus, PM編集, Human Kinetics, (2008), ISBN-13: 978-0736058674, 7) 神経科学, 加藤宏司監訳, 西村書店 (2007), ISBN-13: 978-4890133567, 8) 臨床神経生理学, 柳澤信夫, 医学書院 (2008) , ISBN:978-4-260-00709-2 (資料) 適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	解剖生理学、運動生理学、バイオメカニクスの基礎知識を備えていること。			備考(教員メッセージ含む)	履修に関しては、事前に相談すること。	
オフィス・アワー	田巻：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 305研究室 tamaki@nifs-k.ac.jp 與谷：随時（事前にメールで連絡を頂ければ有難いです）研究棟3階 306研究室 yotani@nifs-k.ac.jp					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	田巻 弘之	オリエンテーション、体力の構成要素とその評価方法の概要、PubMed、EndNoteの使い方			参考書を熟読する。またPubMed及びEndNoteの使い方について復習する。（2時間）	
2	〃	骨格筋の収縮機構：筋力と運動効果とその評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
3	〃	骨格筋収縮の機能低下、筋持久力と運動効果とその評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
4	〃	不動による骨格筋の萎縮と運動・物理療法の効果とその評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
5	〃	不動による骨量低下と運動・物理療法の効果とその評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
6	〃	筋損傷と再生、炎症と運動・物理療法の効果とその評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
7	〃	骨組織・筋組織におけるメカノトランスダクションと生理活性物質：運動効果とその評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
8	與谷 謙吾	末梢性の運動神経伝導速度に関する評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
9	〃	中枢性の運動機能に関する評価：運動誘発電位			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
10	〃	反応時間計測 ：指や全身(下肢)といった異なる運動課題での評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
11	〃	反応時間計測 ：光や音といった異なる外部刺激での評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
12	〃	反応時間の細分化法 ：筋電図を用いた評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
13	〃	反応時間の細分化法 ：Electromechanical delayの評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
14	〃	反応時間の細分化法 ：Visuo-motor related timeの評価			授業内容に関連する文献をPubMed等で調べて精読し、EndNote等にデータベース化する。（2時間）	
15	〃	体力(敏捷性)に関する抄読・プレゼンテーション、まとめ			発表資料の作成、並びにこれまでの取組みを整理する。（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	和田 智仁・前田 明				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツにおけるパフォーマンスは脳内の処理に端を発し、最終的に身体運動によって表現される．したがって、力学を用いて身体運動を解析するバイオメカニクスは、パフォーマンスを直接的に解析する有益なツールである．本講義では、専門的にバイオメカニクスを用いた研究を行うために必要な基礎的な分析手法を理解するとともに、データの解釈について学ぶ．					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ 0 %） ■ 授業への取り組み状況（ 20 %） ■ レポート等の提出状況（ 80 %） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	発表時の内容、質疑応答、レポートの考察を評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	教科書 Biomechanics and Motor Control of Human Movement(4th edition) David A. Winter その他論文					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	英語文献の抄読を行える英語力が必要である。		
オフィス・アワー	前田：事前連絡 和田：事前連絡 研究棟4階 401教員研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁 前田 明	バイオメカニクスについて			授業内容の予習復習（60分）	
2	＂	データ測定と信号処理			授業内容の予習復習（60分）	
3	＂	データ測定と信号処理			授業内容の予習復習（60分）	
4	＂	運動学			授業内容の予習復習（60分）	
5	＂	運動学			授業内容の予習復習（60分）	
6	＂	運動学			授業内容の予習復習（60分）	
7	＂	逆動力学			授業内容の予習復習（60分）	
8	＂	逆動力学			授業内容の予習復習（60分）	
9	＂	逆動力学			授業内容の予習復習（60分）	
10	＂	エナジェティクス			授業内容の予習復習（60分）	
11	＂	エナジェティクス			授業内容の予習復習（60分）	
12	＂	エナジェティクス			授業内容の予習復習（60分）	
13	＂	順動力学			授業内容の予習復習（60分）	
14	＂	順動力学			授業内容の予習復習（60分）	
15	＂	順動力学			授業内容の予習復習（60分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツバイオメカニクス特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)	
担当教員名	和田 智仁・前田 明				補助担当者名		
単位数	2 単位		履修年次	-		受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツにおけるパフォーマンスは脳内の処理に端を発し、最終的に身体運動によって表現される。したがって、力学を用いて身体運動を解析するバイオメカニクスは、パフォーマンスを直接的に解析する有益なツールである。本講義では、バイオメカニクス領域における先行研究のレビューを通じ、バイオメカニクスの歴史や最新知見を学ぶ。また、論文のレビューと討論を通じ、課題を多角的に検討する能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力の向上を目指す。						
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（ 0 % ） ■ 授業への取り組み状況（ 50 % ） ■ レポート等の提出状況（ 50 % ） を総合的に評価する。						
成績評価の基準	発表時の内容、質疑応答、レポートの考察を評価する。						
テキスト、教材 参 考 書	参考書 Biomechanics and Motor Control of Human Movement(4th edition) David A. Winter 各種論文						
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッ セージ含む)	英語文献の抄読を行える英語力が必要である。		
オフィス・アワー	前田：事前連絡 和田：事前連絡 研究棟4階 401教員研究室						
授業計画							
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)		
1	和田 智仁 前田 明	文献抄読と討論：走動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
2	〃	文献抄読と討論：走動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
3	〃	文献抄読と討論：跳動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
4	〃	文献抄読と討論：跳動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
5	〃	文献抄読と討論：投動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
6	〃	文献抄読と討論：投動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
7	〃	文献抄読と討論：打動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
8	〃	文献抄読と討論：打動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
9	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
10	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
11	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
12	〃	文献抄読と討論：その他動作に関する研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
13	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
14	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		
15	〃	文献抄読と討論：測定・分析手法開発に関わる研究			授業の復習および発表資料の作成（60分）		

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生化学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	分子と化学反応を基礎にして、生命現象を考えるのが生化学である。運動負荷にともなうからだの変化について、栄養素の異化によるエネルギー代謝をテーマに、生化学、分子生物学的な面から関連づけて講じる。最終的に、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。					
成績評価の方法	■ 授業への取り組み状況（70%） ■ レポート等の提出状況（30%）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	理解度を基準とする。					
テキスト、教材 参 考 書	入村達郎 訳『ストライヤー生化学』（トッパン） 上代淑人 訳『ハーバー生化学』（丸善）					
履修条件・ 関連科目	とくになし。		備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読会を行う。		
オフィス・アワー	随時 3 0 7 研究室・メール。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	〃	運動負荷とビタミン・補酵素			運動負荷とビタミン・補酵素 を復習する（1時間）。	
2	〃	運動負荷とビタミン・補酵素			運動負荷とビタミン・補酵素 を復習する（1時間）。	
3	〃	運動負荷とビタミン・補酵素			運動負荷とビタミン・補酵素 を復習する（1時間）。	
4	〃	運動負荷と糖質代謝			運動負荷と糖質代謝 を復習する（1時間）。	
5	〃	運動負荷と糖質代謝			運動負荷と糖質代謝 を復習する（1時間）。	
6	〃	運動負荷と糖質代謝			運動負荷と糖質代謝 を復習する（1時間）。	
7	〃	運動負荷と脂質代謝			運動負荷と脂質代謝 を復習する（1時間）。	
8	〃	運動負荷と脂質代謝			運動負荷と脂質代謝 を復習する（1時間）。	
9	〃	運動負荷と脂質代謝			運動負荷と脂質代謝 を復習する（1時間）。	
10	〃	運動負荷とタンパク質代謝			運動負荷とタンパク質代謝 を復習する（1時間）。	
11	〃	運動負荷とタンパク質代謝			運動負荷とタンパク質代謝 を復習する（1時間）。	
12	〃	運動負荷とタンパク質代謝			運動負荷とタンパク質代謝 を復習する（1時間）。	
13	〃	運動負荷とミネラル			運動負荷とミネラル を復習する（1時間）。	
14	〃	運動負荷とミネラル			運動負荷とミネラル を復習する（1時間）。	
15	〃	運動負荷とミネラル			運動負荷とミネラル を復習する（1時間）。	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ生化学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	吉田 剛一郎				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	生体における化学的变化をよく理解し、からだの内部における生化学的な知識をより深める。実際には、生化学演習、分子生物学演習をとあわせて、特殊研究で得られた知識の理解度を深める。最終的に、運動にともなうからだの変化について、生体内代謝に基づく科学的な考察が行えることを目標とする。					
成績評価の方法	■ 授業への取り組み状況（70％） ■ レポート等の提出状況（30％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	演習に取り組む姿勢を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	入村達郎 訳『ストライヤー生化学』（トッパン） 上代淑人 訳『ハーバー生化学』（丸善）					
履修条件・ 関連科目	とくになし。		備考(教員メッ セージ含む)	必要に応じて論文抄読会を行う。		
オフィス・アワー	随時 3 0 7 研究室・メール。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	〃	運動負荷と水分出納			運動負荷と水分出納 を復習する（1時間）。	
2	〃	運動負荷と水分出納			運動負荷と水分出納 を復習する（1時間）。	
3	〃	運動負荷と水分出納			運動負荷と水分出納 を復習する（1時間）。	
4	〃	運動負荷とエネルギー代謝			運動負荷とエネルギー代謝 を復習する（1時間）。	
5	〃	運動負荷とエネルギー代謝			運動負荷とエネルギー代謝 を復習する（1時間）。	
6	〃	運動負荷とエネルギー代謝			運動負荷とエネルギー代謝 を復習する（1時間）。	
7	〃	運動負荷とホルモン・サイトカイン			運動負荷とホルモン・サイトカイン を復習する（1時間）。	
8	〃	運動負荷とホルモン・サイトカイン			運動負荷とホルモン・サイトカイン を復習する（1時間）。	
9	〃	運動負荷とホルモン・サイトカイン			運動負荷とホルモン・サイトカイン を復習する（1時間）。	
10	〃	運動負荷と酵素			運動負荷と酵素 を復習する（1時間）。	
11	〃	運動負荷と酵素			運動負荷と酵素 を復習する（1時間）。	
12	〃	運動負荷と酵素			運動負荷と酵素 を復習する（1時間）。	
13	〃	運動負荷と遺伝情報			運動負荷と遺伝情報 を復習する（1時間）。	
14	〃	運動負荷と遺伝情報			運動負荷と遺伝情報 を復習する（1時間）。	
15	〃	運動負荷と遺伝情報			運動負荷と遺伝情報 を復習する（1時間）。	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	アスリートの栄養サポートについて、スポーツ栄養学の視点から考察する。 さまざまなコンセンサスやガイドラインについて、引用された論文から考察し、現場での活用について検討していく。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） □ 出席状況（％） ■ 授業への取り組み状況（60％） ■ レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	（具体的に記入） 授業に出席し、積極的に取り組む（事前課題の予習を含む）ことを評価する。 授業から得られた考察や検討内容について、レポートを提出する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜配布する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッ セージ含む)	栄養学やスポーツ栄養学の基本的な知識がない学生は、事前の予習が多くなる。		
オフィス・アワー	授業間の休憩時間					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	授業の進め方とスポーツ栄養学とは				
2	〃	女性アスリートの三主徴 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
3	〃	関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
4	〃	関連論文について発表および検討				
5	〃	糖質の摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
6	〃	関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
7	〃	関連論文について発表および検討				
8	〃	タンパク質の摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
9	〃	関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
10	〃	関連論文について発表および検討				
11	〃	ビタミンの摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
12	〃	関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	
13	〃	関連論文について発表および検討				
14	〃	ミネラルの摂取 解説			関連論文の提示および予習（1時間）	
15	〃	関連論文について発表および検討			関連論文発表準備（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ栄養学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ生命科学)
担当教員名	鈴木 志保子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツ栄養学特殊研究【夜間】によって得られた知識を実際の栄養管理に活用する方法について、練習期、試合期に分けて検討する。また、水分補給についても知識を習得するとともに実際の活用を検討する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（60％） ■レポート等の提出状況（40％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業に出席し、積極的に取り組む（事前課題の予習を含む）ことを評価する。 授業から得られた考察や検討内容について、レポートを提出する。					
テキスト、教材 参 考 書	適宜配布する					
履修条件・ 関連科目	スポーツ栄養学特殊研究【夜間】を履修していること			備考(教員メッ セージ含む)		
オフィス・アワー	授業間の休憩時間					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	鈴木 志保子	授業の進め方				
2	〃	水分補給について 解説				
3	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
4	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
5	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
6	〃	事例から水分補給について検討			経験からの事例作成（1時間）	
7	〃	練習期の栄養管理について解説				
8	〃	練習前について検討			経験からの事例作成（1時間）	
9	〃	練習中について検討			経験からの事例作成（1時間）	
10	〃	練習後について検討			経験からの事例作成（1時間）	
11	〃	試合期の栄養管理について解説				
12	〃	試合前について検討			経験からの事例作成（1時間）	
13	〃	試合当日の前について検討			経験からの事例作成（1時間）	
14	〃	試合中についての検討			経験からの事例作成（1時間）	
15	〃	試合後についての検討			経験からの事例作成（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ人文学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	山田 理恵・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	各時代、各社会において、スポーツは人間にどのように関わってきたのか、またそれはどのような意味をもって、どのように行われてきた（行われている）のか——。スポーツ文化を歴史学的、文化人類学的研究の立場から論じることを通して、現代社会におけるスポーツをめぐる諸問題を検討し、今後のスポーツを展望するうえでの有効な資料や手がかりを得ることができる。 本授業では、スポーツ文化の展開について、歴史学的、文化人類学的研究の立場からアプローチすることを通して、現代社会におけるスポーツの文化的価値を考察し、今後の望ましいスポーツのあり方や課題について考究する。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） □ 出席状況（％） ■ 授業への取り組み状況（70％） ■ レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時実施する課題の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	スポーツの歴史学的、文化人類学的研究に関連する著名な文献を適宜用い、必要に応じて資料を配付する。 参考書： ・『成田文庫』記念論集刊行会（編）『スポーツ文化研究のシナジー——体育・スポーツの新たなステージへの展望——』（不昧堂出版、2025年） ・山田理恵『俘虜生活とスポーツ―第一次大戦下の日本におけるドイツ兵俘虜の場合―』（不昧堂出版、1998年） その他の参考書は、適宜紹介する。					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッセージ含む)	「スポーツ人文学特殊研究演習」と併せて履修することが望ましい。		
オフィス・アワー	教務課教育企画係を通して調整する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	真田 久	スポーツ文化人類学的研究の意義と目的			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
2	〃	スポーツ文化人類学の研究法			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
3	〃	スポーツ文化の復元			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
4	〃	古代ギリシアの四大競技祭			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
5	〃	ネメア競技祭の復興			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
6	〃	現代のオリンピック・パラリンピック			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
7	山田 理恵	スポーツ史研究の目的と意義			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
8	〃	史料の収集と史料批判			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
9	〃	スポーツ文化の展開			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
10	〃	スポーツ文化の展開			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
11	〃	スポーツ文化の展開			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
12	〃	スポーツ文化の展開			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
13	〃	国際平和とスポーツ			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
14	〃	スポーツをめぐる今日の課題			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
15	〃	総括			参考書・資料等の復習および復習、まとめ（60分以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ人文学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	山田 理恵・真田 久				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツは、各時代、各社会において人間にどのように関わり、どのような意味をもって、どのように行われてきた（行われている）のか——。スポーツの展開と文化的価値を、歴史学的、文化人類学的研究の立場から考察することを通して、現代社会におけるスポーツをめぐる諸問題を検討し、今後の望ましいスポーツのあり方を考究するうえでの有効な資料や手がかりを得ることができる。 演習形式で行われる本授業では、スポーツの歴史学的研究、文化人類学的研究の成果を用いて、研究方法を修得するとともに、現代社会におけるスポーツの文化的価値と今後のあり方や課題について考究する。					
成績評価の方法	□学期末試験の成績（％） □出席状況（％） ■授業への取り組み状況（70％） ■レポート等の提出状況（30％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	随時実施する課題の成績、授業に対する積極的な取り組み方等を総合的に評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	スポーツの歴史学的、文化人類学的研究に関連する著名な文献を適宜使い、必要に応じて資料を配付する。 参考書： ・『成田文庫』記念論集刊行会（編）『スポーツ文化研究のシナジー——体育・スポーツの新たなステージへの展望——』（不昧堂出版、2025年） ・山田理恵『俘虜生活とスポーツ—第一次大戦下の日本におけるドイツ兵俘虜の場合—』（不昧堂出版、1998年） その他の参考書は、適宜紹介する。					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッセージ含む)	「スポーツ人文学特殊研究」と併せて履修することが望ましい。		
オフィス・アワー	教務課教育企画係を通して調整する。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	真田 久	文化人類学的研究の事例			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
2	〃	古代競技			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
3	〃	古代競技			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
4	〃	古代競技			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
5	〃	古代競技			参考書・資料等の予習および復習（150分以上）	
6	〃	古代競技祭の復元的開催			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
7	山田 理恵	スポーツ史研究における問題の設定と研究計画			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
8	〃	収集史料の整理と吟味			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
9	〃	スポーツ文化と歴史学的、文化人類学的アプローチ			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
10	〃	スポーツ文化と歴史学的、文化人類学的アプローチ			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
11	〃	スポーツ文化と歴史学的、文化人類学的アプローチ			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
12	〃	スポーツ文化と歴史学的、文化人類学的アプローチ			参考書・資料等の予習および復習（60分以上）	
13	〃	研究実践のプレゼンテーション			参考書・資料等の予習および復習、プレゼンテーションの準備（240分以上）	
14	〃	研究実践のプレゼンテーション			参考書・資料等の予習および復習、プレゼンテーションの準備（240分以上）	
15	〃	総括			参考書・資料等の予習および復習、まとめ（60分以上）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	川西 正志				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	生涯スポーツ科学分野での運動・スポーツの現状と課題について、社会科学的アプローチから社会学的・歴史学的現象の解明と研究方法を考究することを目的とする。スポーツと個人・社会・文化の関係を、これまでの社会学・歴史学・文化学的研究動向から概観し、これまでの理論的立場から、諸現象について、より高度な研究視点より、記述、説明、分析する研究能力の習得を目指す。特に、国際研究の視点より日本社会におけるスポーツ社会学研究の独自性について比較考察するとともに、そこでの研究方法論について学ぶ。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（20％） ■ レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	池田勝、守能信次、川西正志他著 「講座スポーツの社会科学シリーズ - スポーツ社会学」杏林書院。 川西正志、野川春夫編著「生涯スポーツ実践論」市村出版。 川西正志、野川春夫監訳「ヨーロッパ諸国のスポーツクラブ」市村出版。 授業時配布の資料					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ社会学特殊研究演習」と併せて履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川西 正志	スポーツ社会学の定義と社会的機能			参考書・資料等の復習及び予習（30分）	
2	〃	社会学的研究法 ― 問題意識と理論的枠組み、ケーススタディーと社会調査			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	スポーツへの社会化論と遊びの社会文化研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	少子高齢化社会とスポーツ ― 高齢者と青少年スポーツの研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	グローバル化とローカリゼーション ― スポーツ文化と地域社会変容			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	スポーツの国際比較 ― 欧米のスポーツ政策とキャンペーン活動			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	スポーツの国際比較 ― 欧米のクラブ・コミュニティ			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	スポーツの社会経済的効果研究			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	スポーツ社会学と社会科学的認識			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	スポーツ社会学における科学的概念の問題			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	スポーツ社会学における「行為」の概念			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	大衆社会状況とスポーツ的価値規範			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	法的・政治的側面から見たスポーツの国際比較			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	スポーツ社会学における課題とその展望			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	まとめ、評価			授業中の課題についてのレポート作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ社会学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	川西 正志				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	1	受け入れ人数	5
授業の概要 及び達成目標	スポーツ社会学特殊研究の内容についての演習を行う。これまでの研究成果について概観し、特に、調査研究と文献的研究の諸外国や日本の研究論文から、研究方法論、研究成果と課題をまとめ考究する。研究論文・文献の正確な読解法を習得する。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（20％） ■ レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	レポート提出及び授業への取り組みを重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	Sociology of Sport Journal. International Review for the Sociology of Sport. Journal of Leisure Research. 他随時提供する。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ社会学特殊研究」と併せて履修することが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	川西 正志	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（30分）	
2	〃	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
3	〃	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
4	〃	スポーツ社会学概念に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
5	〃	スポーツ社会学研究課題に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
6	〃	スポーツ社会学研究課題に関する研究論文の内容分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
7	〃	研究方法論に関する課題発表・プレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
8	〃	研究方法論に関する課題発表・プレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
9	〃	北米におけるスポーツ社会学研究の方法論に関する分析（1）			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
10	〃	北米におけるスポーツ社会学研究の方法論に関する分析（2）			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
11	〃	ヨーロッパ英語圏におけるスポーツ社会学研究の特性分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
12	〃	ヨーロッパ非英語圏におけるスポーツ社会学研究の特性分析			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
13	〃	日本におけるスポーツ社会学研究の目的と方法			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
14	〃	研究における問題意識と方法に関するプレゼンテーション			参考書・資料等の復習及び予習（1時間）	
15	〃	総合討論			授業中の課題についてのレポート作成（3時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ経営学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツ経営学は欧米、特にアメリカのスポーツ産業の隆盛に伴って従来の体育管理から独立・発展し、生涯スポーツにみる教員養成以外の体育スポーツ分野での専門家養成を担う役割を今日果たしている。特にスポーツ施設の経営管理的側面の現状と可能性を探り、スポーツ経営学の応用的な考え方を提示するとともに、スポーツ消費行動、マーケティング戦略の構築と展開、スポーツイベントの企画・開催、スポーツ施設・用具・プログラムの開発・運営、さらにスポーツの経済的効用について理解を深める。スポーツの経営における諸課題を解決するために必要な手法や方法論についての科学的な研究も深める。特にゲーム理論や行動経済学の理論を使って考察を行う。					
成績評価の方法	■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表も入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時指定する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝	スポーツ経営とその学問体系			先行研究の検討 予習1時間、復習1時間	
2	関 朋昭	ライフスタイル（生涯スポーツ）			予習1時間、復習1時間	
3	〃	スポーツ施設の立地と経営			予習1時間、復習1時間	
4	〃	スポーツ施設におけるプログラムとサービス			予習1時間、復習1時間	
5	〃	スポーツ経営とスポーツイベント			予習1時間、復習1時間	
6	〃	スポーツ経営とアマチュアスポーツ			予習1時間、復習1時間	
7	〃	スポーツ経営における倫理的側面とキャリア			予習1時間、復習1時間	
8	〃	スポーツ経営と財務・会計			予習1時間、復習1時間	
9	隅野 美砂輝	スポーツ市場と消費行動			予習1時間、復習1時間	
10	〃	マーケティングと情報資本主義			予習1時間、復習1時間	
11	〃	スポーツ経営とプロスポーツ			予習1時間、復習1時間	
12	〃	スポーツ用品・用具とライセンス			予習1時間、復習1時間	
13	〃	スポーツ経営とメディア・放送			予習1時間、復習1時間	
14	〃	スポーツ経営とブランディング			予習1時間、復習1時間	
15	〃	スポーツ経営とサービスクオリティ			予習1時間、復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ経営学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	関 朋昭・隅野 美砂輝				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツ経営学特殊研究で学習した理論や内容をもとに、スポーツ経営学全般に関する先進的事例を収集する。特にスポーツ経営に関する研究方法を中心に実際の研究事例を精査し、博士論文の研究方法をあわせて検討を試みる。特にゲーム理論や行動経済学の理論を使って考察を行う。					
成績評価の方法	■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％）を総合的に評価する。					
成績評価の基準	上記評価の他、授業時間内の課題発表も入れて総合評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	随時紹介する。					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー						
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	隅野 美砂輝	スポーツ経営学の研究課題			予習1時間、復習1時間	
2	関 朋昭	スポーツ経営における研究の量的分析方法			予習1時間、復習1時間	
3	〃	スポーツ経営における研究の質的研究方法			予習1時間、復習1時間	
4	〃	研究事例の検討：スポーツ施設の財務管理			予習1時間、復習1時間	
5	〃	研究事例の検討：スポーツ組織に関する研究			予習1時間、復習1時間	
6	〃	研究事例の検討：市民スポーツイベントの参加行動			予習1時間、復習1時間	
7	〃	研究事例の検討：スポーツクラブのエリアマーケティング			予習1時間、復習1時間	
8	〃	研究事例の検討：職場内フィットネスプログラムの経済効果			予習1時間、復習1時間	
9	隅野 美砂輝	研究事例の検討：統計資料及び統計分析を用いたスポーツ経営研究事例の検討			予習1時間、復習1時間	
10	〃	研究事例の検討：スポーツクラブの利用者行動			予習1時間、復習1時間	
11	〃	研究事例の検討：スポーツマーケティング戦略			予習1時間、復習1時間	
12	〃	研究事例の検討：スポーツイベントの波及効果			予習1時間、復習1時間	
13	〃	研究事例の検討：スポーツ製品・プログラムの開発			予習1時間、復習1時間	
14	〃	研究事例の検討：グローバル化社会における経営モデル			予習1時間、復習1時間	
15	〃	研究事例の検討：DXを活用した経営モデル			予習1時間、復習1時間	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	森 司朗・中本 浩揮				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツを含む様々な運動場面における人間の行動・心理に関する諸問題について運動制御や自己制御学習や熟達の観点から考究する。記憶・注意・思考などの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関する問題を論究する。 本特殊研究の達成目標は、記憶・注意・思考などの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関しての最近の研究動向をレビューすることで、当該領域の最先端の知識を体系的に説明することができることである。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（20％） ■ レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツを含む運動場面での人間の行動・心理に関する諸問題について運動制御や自己調整学習や熟達の観点から論究された論文を読み、その理解度から評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	資料等は適時配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時 研究棟7階 702・707研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗 中本 浩揮	学際的な研究領域の開拓を目指した授業計画とオリエンテーション			授業の予習と復習（1時間）	
2	〃	運動制御と学習の基礎（1）			授業の予習と復習（1時間）	
3	〃	運動制御と学習の基礎（2）			授業の予習と復習（1時間）	
4	〃	自己制御と運動学習（1）			授業の予習と復習（1時間）	
5	〃	自己制御と運動学習（2）			授業の予習と復習（1時間）	
6	〃	自己制御と運動学習（3）			授業の予習と復習（1時間）	
7	〃	スポーツにおける熟達化の概論（1）			授業の予習と復習（1時間）	
8	〃	スポーツにおける熟達化の概論（2）			授業の予習と復習（1時間）	
9	〃	スポーツにおける熟達化の概論（3）			授業の予習と復習（1時間）	
10	〃	運動制御の熟達による脳の構造的、機能的変化（1）			授業の予習と復習（1時間）	
11	〃	運動制御の熟達による脳の構造的、機能的変化（2）			授業の予習と復習（1時間）	
12	〃	運動制御の熟達と知覚（1）			授業の予習と復習（1時間）	
13	〃	運動制御の熟達と知覚（2）			授業の予習と復習（1時間）	
14	〃	運動制御の熟達と知覚（3）			授業の予習と復習（1時間）	
15	〃	運動制御の熟達と知覚（4）			授業の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ心理学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	森 司朗・中本 浩揮				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	スポーツを含む様々な運動場面における人間の行動・心理に関する諸問題について知覚・運動システムや知覚トレーニングの観点から考究する。タイミング制御や運動制御、エキスパートメカニズムなどの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関して論じた研究内容について演習形式で学ぶ。 本特殊研究演習の達成目標は、記憶・注意・思考などの認知的機能と運動・スポーツ行動との関係といった認知心理学的側面に関しての最近の研究手法が利用できる力を身につけることである。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） ■ 授業への取り組み状況（20％） ■ レポート等の提出状況（80％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツを含む運動場面での人間の行動・心理に関する諸問題について知覚・運動システムや知覚トレーニングの観点から論究された論文を読み、その理解度から評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	適時配布する					
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	随時 研究棟7階 702、707研究室					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	森 司朗 中本 浩揮	知覚・運動課題におけるタイミング制御(1)			授業の予習と復習（1時間）	
2	＂	知覚・運動課題におけるタイミング制御(2)			授業の予習と復習（1時間）	
3	＂	知覚・運動課題におけるタイミング制御(3)			授業の予習と復習（1時間）	
4	＂	一致タイミング課題における運動修正(1)			授業の予習と復習（1時間）	
5	＂	一致タイミング課題における運動修正(2)			授業の予習と復習（1時間）	
6	＂	Quiet eye に関して(1)			授業の予習と復習（1時間）	
7	＂	Quiet eye に関して(2)			授業の予習と復習（1時間）	
8	＂	Quiet eye に関して(3)			授業の予習と復習（1時間）	
9	＂	知覚トレーニング(1)			授業の予習と復習（1時間）	
10	＂	知覚トレーニング(2)			授業の予習と復習（1時間）	
11	＂	知覚トレーニング(3)			授業の予習と復習（1時間）	
12	＂	運動学習における顕在学習と潜在学習(1)			授業の予習と復習（1時間）	
13	＂	運動学習における顕在学習と潜在学習(2)			授業の予習と復習（1時間）	
14	＂	運動学習における顕在学習と潜在学習(3)			授業の予習と復習（1時間）	
15	＂	今後の研究の方向			授業の予習と復習（1時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ教育学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	梶 ちか子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本授業では、学校体育を中心としたスポーツ教育学研究について、理論的・方法的に高度な水準から検討する。体育科教育学の主要論点を再検討するとともに、カリキュラム研究、授業研究、教師教育研究、学習評価研究、共生・包摂の視点を含む学校体育研究の最新動向を批判的に検討する。特に、教育実践研究およびデザイン研究を中核に、質的研究・量的研究・混合研究法・レビュー研究を位置づけ、博士論文につながる研究課題の精緻化を図る。 【授業に含まれる活動】○・・・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(○)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(○)					
成績評価の方法	☐ 学期末試験の成績(%) ☐ 出席状況(%) ☒ 授業への取り組み状況(50%) ☒ レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	スポーツ教育学の主要理論および研究方法論を批判的に検討できることを求める。 文献レビュー、口頭発表、討論での応答、研究計画等において、独自性、学術的意義、方法的妥当性が示されているかを評価する。					
テキスト、教材 参 考 書	国内外の学術論文を中心に用いる。必要に応じて以下の領域の文献を扱う。 ・体育科教育学、スポーツ教育学、カリキュラム研究 ・教師教育、授業研究、評価研究 ・デザイン研究、実践研究、混合研究法 ・学校体育における共生・包摂、学習者理解、身体文化研究					
履修条件・ 関連科目	修士課程レベルの体育科教育学・研究方法論の基礎を修得していること。 後期の「スポーツ教育学特殊研究演習」と連続して履修することが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)	授業では、受講者自身の博士論文テーマに接続させながら、理論枠組みと方法論の再構築を行う。		
オフィス・アワー	授業前後およびメールによる事前連絡の上、随時対応する(703研究室)。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	梶 ちか子	ガイダンス：博士課程におけるスポーツ教育学研究の課題			自身の博士論文テーマの現状の整理(120分)	
2	〃	スポーツ教育学研究の理論的射程			主要理論の整理表を作成(120分)	
3	〃	学校体育研究におけるカリキュラム論			関連文献を精読し、論点を整理(120分)	
4	〃	授業研究の理論と方法の再検討			授業研究法の比較表を作成(120分)	
5	〃	教師教育研究と実践的指導力研究			自身の研究との接点のまとめ(120分)	
6	〃	学習評価研究の動向と課題			評価研究に関する批判的レビューを作成(120分)	
7	〃	共生・包摂の視点からみた学校体育研究			国内外文献を比較し、論点を整理(120分)	
8	〃	教育実践研究の理論的位置づけ			実践研究論文を1本選び、方法論の特徴を分析(120分)	
9	〃	デザイン研究の方法論と適用可能性			自テーマへの適用可能性を検討(120分)	
10	〃	質的研究・量的研究・混合研究法の接続			自研究に適した方法論を選択・理由書の作成(120分)	
11	〃	レビュー研究の設計：体系的レビュー、スコーピングレビュー等			レビュー研究としての問いの立て方を検討(120分)	
12	〃	研究倫理、妥当性、信頼性、研究の公開可能性			自研究における倫理・妥当性の論点を整理(120分)	
13	〃	博士論文研究構想発表			コメントを踏まえて構想を修正(120分)	
14	〃	博士論文研究構想発表			理論枠組みと分析計画を再構成(120分)	
15	〃	総括：学術論文文化に向けた研究計画の精緻化			研究計画書を完成・提出(120分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ教育学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	梶 ちか子				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本演習では、博士論文作成および学術論文投稿を見据え、スポーツ教育学研究の遂行能力を高めることを目的とする。受講者は、自己の研究課題に基づき、理論枠組みの精緻化、研究計画の改善、調査・実践の実施、データ分析、論文執筆、学会発表資料の作成を段階的に進める。特に、教育実践研究およびデザイン研究における研究循環の記述、研究成果の学術的提示、査読を意識した論述の構築を重視する。 【授業に含まれる活動】・・・実施あり、×・・・実施なし、・・・授業の進捗状況等、場合によっては実施あり グループワーク(○)、ディスカッション・討論(○)、プレゼンテーション・発表(○)、フィールドワーク(○)					
成績評価の方法	□学期末試験の成績(%) □出席状況(%) ■授業への取り組み状況(50%) ■レポート等の提出状況(50%) を総合的に評価する。					
成績評価の基準	研究計画・発表・討論・草稿作成に主体的に取り組み、学術論文としての体裁・論理性・妥当性を高めているかを評価する。最終的には、博士論文の一部となる章構成案、あるいは投稿論文相当の原稿の完成度を重視する。					
テキスト、教材 参 考 書	各自の研究テーマに関連する国内外の学術論文、関連書籍、研究方法論文献を用いる。 投稿予定先の執筆要領・査読方針等も適宜扱う。					
履修条件・ 関連科目	「スポーツ教育学特殊研究」を履修済み、または同等の理論的・方法論的基盤を有すること。			備考(教員メッセージ含む)	各受講者の研究段階に応じて、論文構想、実践計画、分析、執筆の重点を調整する。相互批評を重視する。	
オフィス・アワー	授業前後およびメールによる事前連絡の上、随時対応する(703研究室)。					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	梶 ちか子	ガイダンス：演習の進め方と到達目標の確認			研究計画の作成(120分)	
2	〃	研究課題の再精査と研究目的の明確化			研究目的・研究質問の再記述(120分)	
3	〃	理論枠組みの精緻化			理論的背景の章草稿を作成(120分)	
4	〃	先行研究レビューの再構成			レビュー表の精緻化(120分)	
5	〃	研究方法の妥当性検討			方法章草稿を作成(120分)	
6	〃	教育実践研究・デザイン研究における介入計画の改善			実践・介入プロトコルの作成(120分)	
7	〃	データ収集計画と分析計画の具体化			分析枠組みとデータ整理表の作成(120分)	
8	〃	中間発表：研究計画または進捗報告			指摘事項を反映して修正版を作成(120分)	
9	〃	結果の提示方法：図表、記述、証拠の示し方			結果提示の試案を作成(120分)	
10	〃	考察の構成と理論・実践への接続			考察章の論点メモを作成(120分)	
11	〃	査読を意識した論文執筆			投稿論文草稿または博士論文章草稿を提出(120分)	
12	〃	相互批評：論文草稿の検討			コメントを踏まえて改稿(120分)	
13	〃	相互批評：論文草稿の検討			コメントを踏まえて改稿(120分)	
14	〃	相互批評：論文草稿の検討			コメントを踏まえて改稿(120分)	
15	〃	総括：博士論文提出・学術誌投稿へのロードマップ確認			最終成果物提出(120分)	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ情報学特殊研究		授業形態	講義	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	和田 智仁				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本講義では、スポーツ情報学に関する理論的枠組みと研究方法論を学ぶとともに、データ収集、管理、分析、可視化、解釈の方法とその限界について考究する。あわせて、スポーツ基本法改正やスポーツ政策にみられるスポーツDXの動向を踏まえつつ日本における制度的背景を理解し、さらに個人情報保護、研究倫理、再現可能性、AI活用の課題についても考察を行う。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） □ 出席状況（％） ■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する					
成績評価の基準	授業で行うディスカッションへの参加状況、授業時に提示する課題の実施状況、理解度などから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：Raval, M. S., Kaya, T., Artan, N. S., & Taber, C.（編）『Sports Data Analytics: Techniques, Applications, and Innovations』Springer Singapore, 2026, DOI: 10.1007/978-981-95-5132-3.					
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッセージ含む)			
オフィス・アワー	事前にメールで予約をお願いします					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁	ガイダンス：スポーツ情報学研究について			スポーツ情報学に関連する研究調査（2時間）	
2	＂	スポーツデータ分析基礎：データの収集と管理			テキスト1章を精読する（2時間）	
3	＂	Athlete Management System の理論と設計			テキスト2章を精読する（2時間）	
4	＂	スポーツ科学におけるデータ解釈と意思決定			テキスト3章を精読する（2時間）	
5	＂	パフォーマンスのモデリングと予測			テキスト4章を精読する（2時間）	
6	＂	傷害予防と負荷管理の理論			テキスト5章を精読する（2時間）	
7	＂	日本におけるスポーツ政策・制度とスポーツDX			関連する事項を調査する（2時間）	
8	＂	競技別分析 サッカー等における傷害予防と意思決定事例			テキスト6章を精読する（2時間）	
9	＂	競技別分析 サイクリング・バドミントンのデータ分析			テキスト7、8章を精読する（2時間）	
10	＂	競技別分析 バスケットボール・テニスのパフォーマンス分析			テキスト9、10章を精読する（2時間）	
11	＂	スポーツデータの倫理、個人情報保護、研究倫理			関連事項を調査する（2時間）	
12	＂	ファンエンゲージメントとAI			テキスト12章を精読する（2時間）	
13	＂	機械学習とスポーツ			テキスト13章を精読する（2時間）	
14	＂	機械学習とスポーツ			関連する文献を調査し精読する（2時間）	
15	＂	研究構想の発表と総括			発表の準備を行う（2時間）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ情報学特殊研究演習		授業形態	演習	授業科目区分	専門科目 (スポーツ人文・応用社会科学)
担当教員名	和田 智仁				補助担当者名	
単位数	2 単位		履修年次	-	受け入れ人数	-
授業の概要 及び達成目標	本演習では、「スポーツ情報学論」で学んだ理論的・方法的知見を踏まえ、スポーツに関する各種データの収集、整理、可視化、分析、解釈といった一連の流れを演習を通じ実践的に学ぶ。演習では、競技力向上、傷害予防、コンディショニング、戦術分析等に関わる課題を対象として、教科書および関連文献で示される分析枠組みや事例を参照しながら、課題設定を行う。					
成績評価の方法	□ 学期末試験の成績（％） □ 出席状況（％） ■ 授業への取り組み状況（40％） ■ レポート等の提出状況（60％） を総合的に評価する。					
成績評価の基準	授業で行うディスカッションへの参加状況、演習内容、授業時に提示する課題の実施状況、理解度などから総合的に判断する。					
テキスト、教材 参 考 書	テキスト：Raval, M. S., Kaya, T., Artan, N. S., & Taber, C.（編）『Sports Data Analytics: Techniques, Applications, and Innovations』Springer Singapore, 2026, DOI: 10.1007/978-981-95-5132-3.					
履修条件・ 関連科目	スポーツ情報学特殊研究を受講していること		備考(教員メッ セージ含む)			
オフィス・アワー	事前にメールで予約をお願いします					
授業計画						
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)	
1	和田 智仁	ガイダンス：演習の目的、使用データ			演習計画策定とデータの収集（2時間）	
2	＂	データの収集と整理			データ整理（2時間）	
3	＂	記述統計・可視化・初期分析			関連研究の調査（2時間）	
4	＂	予測モデルの構築			関連研究の調査（2時間）	
5	＂	予測モデルの構築			予測モデルの適用（2時間）	
6	＂	予測モデルの構築			予測モデルの適用（2時間）	
7	＂	負荷管理・傷害関連データの分析			関連研究の調査（2時間）	
8	＂	負荷管理・傷害関連データの分析			関連研究の調査（2時間）	
9	＂	選手データの管理とダッシュボード設計			関連研究の調査（2時間）	
10	＂	選手データの管理とダッシュボード設計			ダッシュボードに関する調査（2時間）	
11	＂	選手データの管理とダッシュボード設計			ダッシュボード実装（2時間）	
12	＂	映像・イベントデータの構造化			関連研究の調査（2時間）	
13	＂	映像・イベントデータの構造化			データ構造化演習（2時間）	
14	＂	研究倫理と研究計画			研究計画・倫理資料の作成（2時間）	
15	＂	最終討論			演習の振り返り（2時間）	